

～分けつの発生を促進させる浅水管理を～

1 生育状況

○6月10日現在の生育状況（あきたこまち、5地点平均）は、草丈は平年比85%と短く、莖数は平年比58%とかなり少なく、葉数は平年差-0.6葉と遅れています（表1）。

○5月中旬以降、特に5月18日夜から19日朝にかけては7℃を下回るなど、気温の低い日が多く、田植時期によっては活着が遅れたと推察され、代枯れしたほ場が散見されました。

○5月5半旬から6月1半旬にかけては平年より最高気温が低い日が多く、気温日較差が平年より小さい日が多くなりました。また、本年は田植え後に平均気温1.4℃を下回る日が多いことから、活着が遅れ、分けつが少なくなったほ場が多くあると考えられます。今後は、十分な莖数確保のためにも下記の管理を徹底してください。

表1 水稻定点調査結果

(6月10日)

| | 草丈 (cm) | 莖数 (本/m ²) | 葉数 (葉) |
|----------------|------------|---------------------------|-----------|
| 本年 | 22.2 | 98 | 5.7 |
| 平年値 | 26.1 | 168 | 6.3 |
| 平年比・差 (%、±) | 85% | 58% | -0.6 |

2 今後の管理のポイント

水管理により分けつの発生を促進し、莖数の確保に努めてください。

莖数確保ができ次第、中干しへ移行し、弱勢莖を抑えて、有効莖歩合の高い稲体づくりに努めましょう。

①分けつの発生を促進させる水管理

○莖数が少ないほ場では、分けつの発生を促進するための水管理を行いましょう。

○分けつの発生は、昼夜の水温較差が大きい場合に促進されます。このため、入水は水温の低い早朝に行い、日中は止め水とし水温の上昇を図ります。

②還元（ワキ）対策

○気温が上昇すると、土壌還元（ワキ）が起こりやすくなります。ほ場に足を踏み込んだ時に気泡が発生し、下葉の黄化が見られる場合は、短期間の落水や間断かん水等を行い、根の健全化に努めます。

○落水する場合は、除草剤やオリゼメート粒剤等の散布後日数に注意してください。

③適期の中干しによる弱勢莖の抑制

○中干しは、弱勢莖（穂になりにくい莖）の発生を抑制するとともに、受光体制が良くなるため、倒伏軽減効果等が期待できます。

○目標穂数と同数の莖数（70株植で20～22本/株程度、60株植で24～25本/株程度）を確保したら直ちに中干しに入りましょう。中干しの期間は7～10日程度で、軽く足

跡が付く程度（亀裂が1～2cm程度）を目安とします。生育が遅れ、茎数が確保できていない場合は、中干しの開始時期を遅らせてください。

- 中干し始めに溝掘りを行うと、その後の水管理や秋作業がスムーズにできるので、積極的に行ってください。

【カドミウム吸収抑制対策について】

- あきたこまちR以外の品種では、カドミウム吸収抑制対策として行う出穂3週間前から出穂3週間後までの長期間の湛水管理に備え、中干しは遅れないようにしっかりと行ってください。

3 主要病害虫の防除対策

①いもち病

本田の葉いもち発生を防ぐことで、穂いもちの被害を未然に防ぐことができます。以下の点に注意して、葉いもちの発生を予防してください。

- 本田葉いもち防除は、箱施用剤、側条施用剤、水面施用剤のいずれかで必ず実施します。箱施用剤や側条施用剤を使用していない場合は、6月15日頃（12～18日）に10a当たりオリゼメート粒剤2kg、またはルーチン粒剤1kgを散布します。
- 補植用の余り苗は葉いもち病が発生しやすく、周辺ほ場への強力な伝染源となります。補植終了後は、水田の泥の中に埋めるなどして、完全に処分してください。

②斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類は、着色粒発生の原因となり、米の品質低下を助長します。主要加害種であるアカスジカスミカメやアカヒゲホソミドリカスミカメは、休耕田や畦畔等のイネ科雑草で増殖し、これらが水田に侵入して加害することから、雑草防除を徹底しましょう。

- 病害虫防除所の調査では、斑点米カメムシ類の発生時期は早く、越冬量は平年並と推定されています。農道・畦畔、休耕田等の草刈りを地域でまとまって徹底して行うことで、斑点米カメムシ類の生息地における密度低下に努めましょう。草刈りは稲が出穂する15～10日前までに数回行います。
- 本県の主要な加害種であるアカスジカスミカメは、ホタルイ類等のカヤツリグサ科雑草やノビエが水田内で多発していると、その雑草の穂に産卵し増殖します。
- 一発処理除草剤で水田内の雑草を抑えきれなかった場合は、中・後期除草剤を適切に使用して、水田内の雑草防除を徹底しましょう。

4 中・後期除草剤の適正な使用

- 中・後期除草剤の使用にあたっては、雑草の草種や生育程度に応じて適切な剤を選択して下さい。
- 散布時期や散布時の水管理は、薬剤によって異なるので、ラベルをよく読んで適正に使用して下さい。

！気温が高い予報となっています。農作業中の熱中症対策を行い、安全に作業しましょう！